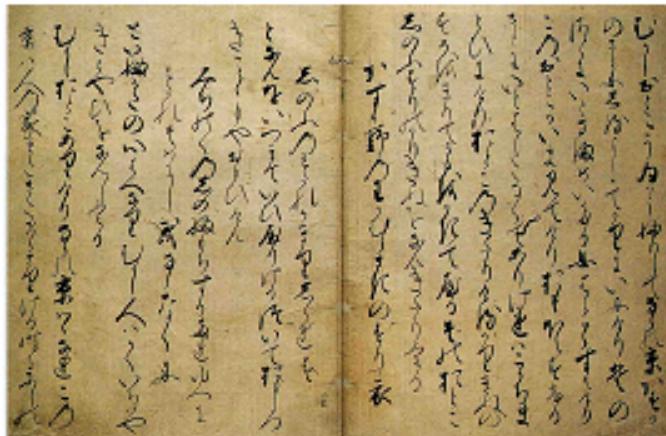


—東海大学付属図書館第45回展示会—

桃園文庫展

—平安朝の物語を中心に—



「伊勢物語」より

2006年11月1日(水)～12月2日(土)
東海大学付属図書館
展示室(湘南校舎11号館1階)



~ 最近の展示 ~

- 2001年 6月 500年の時を超えて - 連歌師宗祇展 -
11月 松前重義博士の本棚
- グルントヴィ・内村鑑三・新渡戸稻造・松前重義博士の主な著作展 -
- 2002年 5月 書物の文化史 書物探求～文字・印刷・装丁の歴史と多様性
11月 王朝文学と音楽 - 写本によるみがえる音色 -
- 2003年 5月 TABI 大名列から大航海時代 - 日本と世界・旅の姿 -
11月 劇作家 北條秀司
- 2004年 5月 むかしのくらし
11月 北條秀司の舞台
- 2005年 4月 歴史書は語る - ビザンツ帝国一千年の歴史と歴史書 -
6月 北欧の近代文学
11月 彩色本となった日本の古典文学 - 東海大学付属図書館蔵書展
- 2006年 6月 江戸の出版物と装丁あれこれ



展示にあたって

池田亀鑑博士が収集された桃園文庫は、1973年に東海大学建学30周年事業の一環として、一括して東海大学が譲り受けた。今回は「桃園文庫展 平安朝の物語を中心に」と題し、平安朝に成立した物語の写本や刊本、その注釈書、池田亀鑑博士の原稿類など96点を展示した。

池田亀鑑博士(1896-1956)は東京帝国大学文学部国文学科を卒業後、東京大学教授となった。平安朝文学を専攻し、膨大な文献資料を駆使して、文献の復元を実践する「文献批判的研究」という学問的方法を樹立した。研究過程で収集された文献や調査資料が、桃園文庫(和装本約3000点、洋装本約3200点、他原稿類)と呼ばれている。

この中には池田亀鑑博士自ら書写したもの、父君の宏文氏や桃園文庫の整理等に尽力された木田園子氏による新写本(毛筆・ペン・鉛筆による書写)、青写真で複写したもの多く残されている。新写本や青写真で複写したものの多くの原本は、大変貴重な古写本で、中にはすでに焼失するなど現存しないものもある。そのため、桃園文庫に残された新写本や青写は、資料的価値が非常に高いものもある。

また、桃園文庫の池田亀鑑博士が研究発表された原稿類や未発表と思われる原稿、研究記録などを見ると、そこには博士が資料を入手したときの喜びや、その年代や調査のメモなどが記されている。それらは博士の生の声であり、学問に対する情熱を感じさせられるものがある。

この度の展示会により、古典を今日まで伝えた古人の跡や、池田亀鑑博士の研究に対する情熱などを感じ取っていただければ幸いである。

東海大学付属図書館

竹取物語

平安初期の成立。作者未詳。かな文による最初の物語である。竹取翁が竹の中から見つけた「小さ子」が美しく成長し、「かぐや姫」と名付けられる。この姫は五人の貴公子に求婚されるが、それぞれに仮の御石の鉢、蓬萊の玉の枝、火鼠の萎萊(かわぎぬ)、竜の首の五色の玉、燕の子安貝を取つて来るよう難題を課して失敗させ、帝の求婚も拒否して、八月十五夜、月の世界へ帰つて行く。

1. 竹取物語 たけとりものがたり

江戸初期写(1600年代) 61丁 24cm

袋綴、紙表紙、写本

現存する写本中、天正20年(1592)の奥書を有するのが最古のものである。展示資料は頁ごとに色変わりする紙に、最古本と目される写年に比較的近い江戸時代初期に写されたものである。

2. たけとり物語 たけとりものがたり

安藤和久之丞写

元禄頃写 (1688-1704) 2冊 25cm

列帖装半紙本、奈良絵本

3. たけとり物語 たけとりものがたり

江戸後期刊 (1800年代) 48丁 27cm

袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

茨城多左衛門版の刊本。画家、富岡鉄斎(とみおか・てっさい 1836-1924)書入本。

4. 竹取物語抄 小山儀(伯鳳)著；入江昌喜補 たけとりものがたりしよう

天明3年刊(1783) 2冊 27cm

袋綴、紙表紙、刊本

国学者・儒学者である小山儀(こやま・ただし 1750-1774)による遺稿を入江昌喜が整理、補筆して天明4年(1784)に刊行された竹取物語の注釈書。展示資料は清水浜臣の旧蔵本で、欄外に清水浜臣による校注が細字にて墨書きされている。

5. 竹取物語俚言解 / 佐佐木弘綱著 たけとりものがたりりげんかい

京都：出雲寺文次郎 戒屋治助刊

安政頃刊(1854-1860) 2冊 26cm

袋綴、紙表紙、刊本

国学者である佐佐木弘綱(ささき・ひろつな 1828-1891)による安政4年(1857)に成立した竹取物語の注釈書である。

6. 竹取物語伊佐左米言 / 狩毛呂成著 たけとりものがたりいささめごと

寛政頃刊(1789-1801) 48丁 26cm

袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

国学者、狩毛呂成(こま・もろなり 1802没)による寛政5年(1793)に成立した竹取物語の注釈書。展示資料は毛品成の原本から直接、「竹取物語」茨城多左衛門版の版本に「伊佐左米言」の本文を寛政7年(1795)に写した本(同志社大学蔵)をさらに写したものである。

7. 竹取翁物語解追考 たけとりおきなものがたりかいついこう

紙表紙

65枚の原稿用紙に記された池田亀鑑博士研究論文草稿。(昭和22年)

伊勢物語

平安中期頃の成立。作者は未詳であるが、六歌仙の一人である歌人・在原業平(825-880)の歌文をもととして10世紀中頃には今日の形になったものと考えられている。125段の名歌を中心とした恋物語からなっており、各段は互いに独立し、「昔歌」によって全体が統一されている。

8. 伊勢物語 いせものがたり

室町中期写(1400年代) 88丁 21cm

胡蝶装、紙表紙、楮紙

展示資料は藤原定家(ふじわら・ていか 1162-1241)が書写した本の系統で、永正5年(1508)頃写されたものと思われる。

9. 伊勢物語 いせものがたり

木田園子写

昭和12年写(1937) 89丁 28cm

袋綴、紙表紙、写本

池田亀鑑博士の研究活動の助手として桃園文庫資料整理や写本の作成などにあたった木田園子氏の写本である。

10. 伊勢物語 いせものがたり

ト部朝臣兼邦写伝

室町中期写(1400年代) 85丁 25cm

胡蝶装、紙表紙、鳥の子紙

展示資料は、池田亀鑑博士によると定家本系統の流布本に分類される。

11. 伊勢物語 いせものがたり

江戸後期刊(1800年代) 51丁 27cm

袋綴、紙表紙

塙保己一(はなわ・ほきいち 1746-1821)の編纂による「群書類従」(530巻665冊、目録1巻)は天明6年(1786)から刊行にかかり文政2年(1819)に完了した。展示資料はその内の307巻である。

12. 伊勢物語 いせものがたり

豊原統秋写

室町後期写(1500年代) 78丁 24cm

胡蝶装、布表紙

室町時代の楽家・歌人であった豊原統秋(とよはら・むねあき 1450-1524)によって書写されたものである。

13. 伊勢物語 いせものがたり

慶長13年刊(1608) 2冊 27cm

袋綴、紙表紙、雁皮紙

嵯峨本の代表作となる出版物。木版の挿絵を入れ、色変わり料紙(頁ごとに色を変えた紙)を使用している。本格的な絵入本で、平仮名交じりの古活字版。慶長13年(1608)出版後、何度も異植字版や木版印刷(整版)で増版され人気が高かった。

14. 伊勢物語隨脳 / 在原滋春著 いせものがたりすいのう

室町末期写(1500年代) 28丁 26cm

大和綴、紙表紙、雁皮紙

在原業平の二男である滋春(生没年不明)による、南北朝時代から室町時代初期に成立した伊勢物語の注釈書である。

15. [伊勢物語愚見抄] / 一条兼良著 いせものがたりぐけんしょう

室町末期写(1500年代) 44丁 25cm

袋綴、紙表紙

歌人・連歌作者・和学者・故実家である、一条兼良(いちじょう・かねよし 1402-1481)による伊勢物語の注釈書である。長禄4年(1460)に初稿が成立。展示資料は、文明6年(1474)に桃華堂文庫が応仁の乱で稿本が焼かれた後、訂正増訂されたものの写しである。

16. 伊勢物語塗籠鈔 いせものがたりぬりごめしょう

寛政10年写(1798) 51丁 31cm

袋綴、紙表紙

17. 伊語當流秘抄直解 / 三条西実隆著 いごとうりゅうひしょうちょっかい

江戸初期写(1600年代) 83丁 31cm

袋綴、紙表紙、鳥の子

室町時代の和学者、三条西実隆(さんじょうにし・さねたか 1455-1537)による注釈書。

18. 伊勢物語聞書 / 宗祇講 いせものがたりききがき

天文20年写(1551) 86丁 25cm

袋綴(仮綴)、紙表紙、楮紙

室町時代に連歌師として活躍した宗祇(そうぎ 1421-1502)による講義の聞書をもとにした注釈書。

19. 伊勢物語拾穂抄 / 北村季吟著 いせものがたりしゅうすいしょう

長尾平兵衛

延宝8年刊(1680)

5冊 28cm

袋綴、紙表紙

江戸時代の俳人・歌人・和学者でもあった北村季吟(きたむら・きぎん 1624-1705)による注釈書。

20. 伊勢物語闕疑抄 / 細川幽斎著 いせものがたりけつぎしょう

慶長7年写(1602) 188丁 23cm

蝴蝶装、紙表紙、雁皮紙

安土桃山時代の和学者であった細川幽斎(ほそかわ・ゆうさい 1534-1610)による注釈書。

21. 伊勢物語古意 / 賀茂真淵著 いせものがたりこい

江戸後期刊(1800年代) 6冊 27cm

袋綴、紙表紙

国学者・歌人であった賀茂真淵(かも・まぶち 1697-1769)による注釈書。

22. [勢語憶斷] / 契沖著 せいごおくだん

江戸後期写(1800年代) 4冊 28cm

袋綴、紙表紙

国学者であり僧侶でもあった契沖(けいちゅう 1640-1701)による注釈書。書名は「伊勢物語」に臆断(おくだん=推測で判断すること)を加えるという意。展示資料は墨・朱筆の書き入れがある。

23. よしやあしや / 上田秋成著 よしやあしや

書肆東都 西村源六刊

寛政5年刊(1793)

22丁 27cm

袋綴、紙表紙

江戸時代の国学者・歌人・読本(よみほん)作者でもあった上田秋成(うえだ・あきなり 1734-1809)による注釈書。

24. 伊勢物語カルタ いせものがたり かるた

江戸後期製作(1800年代) 148枚

伊勢物語のカルタ。

25. 伊勢物語業平壽娛六 / 松亭金水作 ; 一陽斎豊国画 いせものがたり なりひら すごろく

[江戸]：日本橋通三丁目 藤岡屋彦太 製作

江戸後期製作(1800年代) 1枚 37×73cm

江戸時代の読本・人情本作者であった松亭金水(しょうてい・きんすい 1797-1862)作。この時代の絵師であった一陽斎豊国(=歌川豊国、うたがわ・とよくに 1786-1864)画。

26. 伊勢物語繪巻 いせものがたり えまき

江戸初期模写(1600年代) 1軸 34×1309cm

巻子本、紙表紙

鎌倉時代後期に成立したこの絵巻の詞書は、伊勢物語本文の研究に重要な資料である。展示資料は、江戸時代初期の模写である。

大和物語

天暦5年(951年)頃成立、後増補されて現形となった。当時貴族の間に流行した和歌にまつわる説話で、貴族の日常生活に根ざした雑談や噂話に共通するもので、和歌にともなう文学的要素とともに、世俗的興味にも濃く彩られており裏話・秘話に接近するものもある。事実に根ざすものが比較的多いが、必ずしもすべてが真実であるとは限らない。

27. 大和物語 やまとものがたり

江戸初期写(1600年代) 85丁 26cm

袋綴、紺色紙表紙、雁皮紙、写本

慶長(1596-1615)頃の古活字本の写しと思われる。

28. 大和物語 やまとものがたり

木田園子、池田宏文写

昭和8年写(1933) 97丁 28cm

袋綴、紙表紙、現写本

御巫清勇氏秘蔵本の書写と識語にある。

29. 大和物語 やまとものがたり

寛永16年刊(1639年) 2冊 28cm

袋綴、紙表紙、楮紙、刊本

古活字版。

30. 大和物語 やまとものがたり

江戸後期刊(1800年代) 2冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本
群書類従卷308。

31. 大和物語抄 / 北村季吟著 やまとものがたりしよう

承応2年刊(1653) 6冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本

32. 大和物語系図別勘 やまとものがたりけいすべっかん

承応元年写(1652) 60丁 28cm
袋綴、紙表紙、写本
「大和物語別勘」「大和物語追考」を含む写本。

33. 大和物語 / 和田以悦著 やまとものがたり

[京都] : 谷岡七左衛門板行
明暦3年刊(1657) 5冊 24cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本
歌人、和田以悦(わだ・もちよし 1673-81頃没)による注釈書。別名「大和物語首書」ともいう。

34. 大和物語直解 / 賀茂真淵著 やまとものがたりちょっかい

昭和20年頃写(書写者不明) 3冊 27cm
袋綴、紙表紙、現写本
賀茂真淵による注釈書。神宮文庫の現代写本。

宇津保物語

天禄-長徳(970-999)頃にかけての成立か。作者未詳。「うつぼ」は空洞の意で、首巻「俊蔭」中の話からの命名。貴宮(あてみや)をめぐる求婚物語などから成る。

35. 宇津保物語 うつぼものがたり

江戸中期写(1700年代) 20冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本
展示資料は桐箱(漆塗)に入っており、おそらく嫁入り本として嫁家に持参したものであろう。

36 宇津保物語 うつぼものがたり

[京都] : 洛陽今出川 林和泉掾開板
万治3年刊(1660) 92丁 25cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

37. 空物語玉琴 / 細井貞雄著 うつぼものがたりたまごと

江都書肆 野村新兵衛刊
文化・文政頃刊(1804-1830) 2冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本
国学者、細井貞雄(1823没)による、うつぼ物語の注釈書である。文化12年(1815)に成立したこの資料は、うつぼ物語の文学性を論じているうえで、後世に多大な影響を与えた。

38. うつぼ物語考 / 桑原やよ子著 うつぼものがたりこう

長尾景寛写
文化14年写(1817) 31丁 28cm
袋綴、紙表紙、写本

39. 宇津保物語考證 / 清水浜臣著 うつぼものがたりこうしょう

江戸後期写(1700年代) 4冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

40. 空穂物語見出し / 高橋広道稿・自筆 うつぼものがたりみだし

江戸後期頃写(1800年代) 18丁 25cm
袋綴、紙表紙、写本
高橋広道自筆校本。

落窪物語

成立年未詳。母を早く亡くし、父の中納言に引き取られている女君は床の落ち窪んだ部屋をあてがわれ、
継母に「落窪の君」と名付けられ冷遇されていた。後に左大将の若君道頼によって救い出され、最後には
諸事めでたく納まる。

41. おちくぼ

藤原福雄写
宝暦11年写(1761) 3冊 28cm
袋綴、紙表紙、写本

42. 落窪物語 おちくぼものがたり

京都：額田正三郎刊
寛政11年刊(1799) 6冊 26cm
袋綴、紙表紙、刊本
序は上田秋成。

43. おちくぼ物語註釋 / 村田春海、橋千蔭共著 おちくぼものがたりちゅうしゃく

書肆青山堂刊
寛政4年頃刊(1792) 2冊 26cm
袋綴、紙表紙、刊本
江戸中期の歌人、国学者の村田春海(むらた・はるみ 1746-1811)、橋千蔭(たちばな・ちかげ 1735-1808)による注釈書。

44. 校本落窪物語 こうほんおちくぼものがたり

4冊 27cm
紙表紙
池田亀鑑博士研究資料 本文篇。

45. 校本落窪物語 こうほんおちくぼものがたり

4冊 27cm
紙表紙
池田亀鑑博士研究資料 校異篇。

源氏物語

平安時代中期の成立。紫式部著とするのが通説。現存のものは54巻からなるが、成立当初から54巻であったかは不明。前半は主人公光源氏の愛の遍歴と栄華を、後半は源氏の後継者である薰大将と匂宮を主人公とした愛と宗教を描く。物語文学の最高峰とされ、後世の文学に及ぼした影響は大きい。

46. 源氏物語 / 紫式部著 げんじものがたり

室町末期写(1500年代) 29冊 23cm
袋綴、紙表紙、楮紙、写本

47. 源氏物語 / 紫式部著 げんじものがたり

伝明融筆
室町末期写(1500年代) 9冊 22cm
胡蝶装、紙表紙、写本
この明融本九冊は、藤原定家が校訂をおこなった青表紙本原本の字形・字配り等をそのまま忠実に臨写した写本であると考えられていることから、『源氏物語』の本文資料として貴重とされている。

48. 源氏物語 宿木巻 / 紫式部著 げんじものがたり やどりきのまき

伝二条為氏写
鎌倉末期写(1300年代) 221丁 24cm
胡蝶装、布表紙、雁皮紙、写本
展示資料は文中2年(1373)の奥書きを持ち、鎌倉時代の書写にかかる古写本である。本文資料的価値はかなり高いものである。青表紙本系統の一古写本として有力な本文資料である。

49. 源氏物語 / 紫式部著 げんじものがたり

江戸初期刊(1600年代) 9冊 27cm
袋綴、渋紙表紙(改装)、楮紙、刊本

50. 源氏物語 / 紫式部著 げんじものがたり

慶安3年跋刊(1650) 60冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本
本文54巻54冊の他に系図1冊、引歌1冊、山路の露1冊、目案3冊を付す。

51. 源氏物語 空蝉巻 / 紫式部著 げんじものがたり うつせみのまき

池田亀鑑博士写
昭和14年写(1939) 23丁 20cm
袋綴、紙表紙、写本

52. 源氏物語 竹河巻 げんじものがたり たけかわのまき

池田亀鑑博士写
書写年不明 50丁 19cm
袋綴、紙表紙、写本
飯島氏本を書写。

53. 源氏物語 柏木巻 / 紫式部著 げんじものがたり かしわぎのまき

池田亀鑑博士写
書写年不明 57丁 19cm
袋綴、紙表紙、写本
兵庫県宝塚市月島 長谷場純敬所蔵本を書写。

54. 源氏物語 若紫巻 / 紫式部著 げんじものがたり わかむらさきのまき

池田宏文写
昭和6年写(1931) 26丁 18cm
袋綴、紙表紙、写本
池田亀鑑博士の父、池田宏文による写本。

55. 源氏物語花宴巻 / 紫式部著 げんじものがたり はなのえんのまき

池田宏文写
昭和7年写(1932) 20丁 19cm
袋綴、紙表紙、写本
大島雅太郎氏蔵本より書写。

56. 源氏物語鈴虫巻 / 紫式部著 げんじものがたり すずむしのまき

池田宏文写
昭和8年写(1933) 19丁 28cm
袋綴、紙表紙、写本

57. 源氏釋 / 世尊寺伊行著 げんじしゃく

昭和3年写(1928) 121丁 28cm
袋綴、紙表紙、写本
源氏釈は平安末期成立。藤原氏・世尊寺家の書家、伊行(1175没)による「源氏物語」の最古の注釈書。物語の一部(要約)に、故事・出典などの説明を記している。「不明な箇所を顕(あらわ)にする」ということから、「源氏あらはし」などの異名を持つ。藤原定家の「奥入」の基礎となるなど、以後の注釈研究に影響を与えた。資料は前田家所蔵のものを書写。書写者不明。

58. 源氏物語奥入 / 藤原定家著 げんじものがたりおくいり

江戸初期写(1600年代) 61丁 29cm
袋綴、紙表紙、雁皮紙、写本
藤原定家による源氏物語の初期の注釈書。「各巻の奥に説を入れる」の意。「源氏釋」を根底とし、誤りを正し、自説を加えるなどしたものの。故事、出典、構想、解釈など広範囲にわたる注釈を記し、後の注釈書の源となつた。

59. 源氏物語抄 / 素寂著 げんじものがたりしょう

池田亀鑑写
書写年不明 1軸 28×260cm
巻子本、布表紙
素寂は鎌倉時代の人で、源光行の子。池田亀鑑博士によると、この資料の写本の原本は「...紫明抄の古写本なり現存諸本中最古のものなるべし」とある。斎藤兼蔵氏蔵本を池田亀鑑博士が書写したもの。

60. 原中最祕抄 / 源親行原著 げんちゅうさいひしょう

江戸中期写(1700年代) 59丁 26cm
袋綴、紙表紙、写本
親行の父である、光行の「水原抄」の秘説を集め、親行の子の、聖覺らが加筆した注釈書。源氏物語の研究を家の学問とした源光行の一門(河内家)の秘書として伝承された。

61. 河海抄 / 四辻善成著 かかいじょう

江戸初期写(1600年代) 10冊 27cm

袋綴、紙表紙、楮紙、写本

貞治頃(1362-1368)に成立した室町初期の代表的な注釈書。以後の源氏物語の研究に大きな影響を与えた。本文は河内本を尊重しているが、藤原定家より伝わる青表紙本系の本文にも注意が払われている。

62. 花鳥餘情 / 一条兼良著 かちょうよじょう

江戸後期写(1800年代) 15冊 28cm

袋綴、紙表紙、写本

文明4年(1472)に成立した室町中期の代表的な注釈書。自序の部分で「河海抄」を補足、訂正したことが記されている。特徴として、従来の語句のみをとりあげた注釈ではなく、長く文を引用して説明していることがあげられる。

63. 帛木別注 / 宗祇著 ははきぎべっちゅう

江戸後期写(1800年代) 48丁 28cm

袋綴、紙表紙、写本

連歌師の宗祇による源氏物語「帛木巻」の注釈書で、別名「雨夜談抄帛木別注」。成立は文明17年(1485)。

64. 弄花 / 牡丹花肖柏著 ろうか

江戸後期写(1800年代) 80丁 14cm

袋綴、紙表紙、写本

成立は永正7年(1510)。牡丹花肖柏作だが、三条西実隆が、牡丹花肖柏の「源氏物語聞書」を借用し、「河海抄」「花鳥餘情」などの説を引用補正した注釈書である。

65. 源氏物語聞書 / 三条西実隆著 げんじものがたりききがき

伝徳大寺公維写

室町後期写(1500年代) 1軸 ; 23×971cm

巻子本、楮紙、写本

三条西実隆の源氏物語の講釈を書き取った注釈書。

66. 細流抄 / 三条西公条著 さいりゅうじょう

江戸中期写(1700年代) 98丁 28cm

袋綴、紙表紙、写本

室町後期の代表的な源氏物語の注釈書。三条西実隆の講釈を子の公条が聞き書きし、清書し、実隆が校閲をしたもの。三条西実隆が「弄花抄」を作成後の、永正7-10年頃(1510-13)に作ったと考えられている。以後、江戸初期の「湖月抄」にいたる源氏物語研究はいずれも「細流抄」の影響下にあるといえる。本資料には「九條」印がある。

67. 孟津抄 / 九条植通著 もうしんじょう

室町後期写(1500年代) 143丁 27cm

袋綴、紙表紙

天正3年(1575)に成立した注釈書で、三条西家の源氏物語研究の系列に属する。展示資料69と同じく、三条西公条の「源氏物語」講釈を聞いて作成したものとされる。

68. 明星抄 / 三条西実枝著 みょうじょうじょう

江戸中期刊(1700年代) 20冊 27cm

袋綴、紙表紙

著者は池田龜鑑編「源氏物語事典」による。実枝は実隆の孫、公条の子。天文8年-10年頃(1539-41)に成立した注釈書。

69. [紹巴抄] / 里村紹巴著 じょうはしょう

江戸初期写(1600年代) 17冊 22cm

袋綴、紙表紙、楮紙

永禄8年(1565)に成立した注釈書で、三条西家の源氏物語研究の系列に属する。里村紹巴が三条西公条の「源氏物語」講釈の席に連なり作成した注釈の聞書ノート。

70. 岷江入楚 / 中院通勝著 みんごうにっそ

江戸中期写(1700年代) 55冊 33cm

袋綴、紙表紙

成立は慶長3年(1598)。三条西実枝の甥にあたる通勝が三条西家の源氏物語研究を学び、自説を加えて諸々の注釈書を集成したもの。

71. 湖月抄 / 北村季吟著 こげつしょう

書林 林和泉 村上勘兵衛 吉田四郎右衛門 村上勘左衛門

江戸後期刊(1800年代) 60冊 27cm

袋綴、紙表紙

江戸初期における「源氏物語」の代表的な注釈書。延宝元年(1673)に成立。旧注釈書の集約的内容が濃く、これによって旧注釈書の大体を知ることができる。江戸時代を通じて広く流布し、「源氏物語」の普及・研究の促進に大きく貢献した。

72. 源氏物語新釈 / 賀茂真淵著 げんじものがたりしんしゃく

寛政12年頃写(1800) 54冊 27cm

袋綴、紙表紙

「源氏物語」の注釈書。宝暦8年(1758)に成立。

73. 源氏物語玉の小櫛 / 本居宣長著 げんじものがたりたまのおぐし

江戸：柏尾兵助他刊

江戸後期刊(1800年代) 9冊 27cm

袋綴、紙表紙

本居宣長(もとおりのりなが 1730-1801)による「源氏物語」の注釈書。寛政8年(1796)に成立。「もののあはれ」論を力説している。

74. 源氏小鏡 げんじこかがみ

藤原円心写

天文10年写(1541) 94丁 26cm

袋綴、紙表紙、雁皮紙

「源氏物語」の代表的な梗概書。物語の内容を巻順に簡単な梗概にまとめ、各巻に連歌寄合の語を収めている。展示資料巻末に「天文拾年九月廿二日如本写也 藤原円心筆」とある。

75. 源氏こかゝみ げんじこかかみ

寛文6年刊(1666) 3冊 16cm

袋綴、紙表紙、絵入本

76. 源氏物語諸巻年立 / 一条兼良著 げんじものがたり しょかんとしたて

江戸初期写(1600年代) 97丁 25cm

胡蝶装、雁皮紙

享徳2年(1453)に成立。光源氏・薫の年齢を追って整理し、「源氏物語」理解のために年表のようにまとめたもの。

77. 源氏物語系図 げんじものがたりけいす

鎌倉初期写(1200年代) 1軸 29 × 682cm

巻子本、紙表紙、雁皮紙

「源氏物語」理解のために作中人物を系図化したもの。系図の整理形態に即して諸本を3期に分類すると、三条西実隆以前の古系図、実隆が長享2年(1488)に整理した系図、北村久備「すみれ草」文化9年(1812)以後のものの3つに分けられる。展示資料は、現存する古系図として最古の九条家旧蔵本である。

78. 源氏物語系図 げんじものがたりけいす

伝越部禅尼写

鎌倉初期写(1200年代) 1軸 30 × 725cm

巻子本

筆者については不詳。為氏本に最も近い系統の古系図であるが、他の古系図には見られない人物表記と注記がされている。

79. 源氏物語かるた げんじものがたりかるた

江戸後期頃製作(1800年代) 220枚 9 × 6cm

「源氏物語」のカルタ。

80. 源氏物語絵図 / 香蝶楼国貞画 げんじものがたりえす

香蝶楼(歌川)国貞画

江戸後期刊(1800年代) 9枚

「源氏物語」を題材とした絵画。展示資料は「うつ蝉」の巻と「わかな」の巻である。

81. 光源氏双六 ひかるげんじすごろく

江戸後期刊(1800年代) 1枚 74 × 53cm

「源氏物語」の登場人物などを題材にしたすごろく。

82. 投扇興點付 / 富川周重筆 とうせんきょううてんつき

横浜；幸栄堂 鈴木伝次郎

製作年不明 明治初期か 1枚 19 × 11cm

投扇興點付とは投扇興を源氏香図になぞらえて、源氏物語の巻名を付けて記した点数表。

83. 源氏香図 げんじこうず

製作年不明 1帖 15 × 7cm

折本、紙表紙

源氏香とは、数種の香を聞き分ける香遊びの一種で、展示資料は香の組み合わせを記号化した図である。全部で52種類あり、それぞれに源氏物語の「夕顔」や「若紫」といった巻名が付けられている。

多武峯少将物語

成立年は未詳。藤原師輔の八男として生まれ前途が期待される高光の若くしての突然の出家をめぐり、残された妻や母妹などの悲しみを中心とした物語である。

84. 多武峯少将物語 とうのみねしょうしょうものがたり

清水浜臣写

江戸中期写(1700年代) 68丁 27cm

袋綴、紙表紙(改装表紙)、写本

清水浜臣書入「初瀬物語」「鳴門中将物語」「物あらそひ」を含む。

85. 多武峯少将物語考証 / 丸林孝之著 とうのみねしょうしょうものがたりこうしう

文政7年刊(1824)
袋綴、紙表紙、刊本

33丁 28cm

狹衣物語

平安時代中期成立。時の閨白堀川殿の子の狹衣を主人公とした物語。従妹、源氏宮へのかなわぬ恋をはじめ、数々の恋愛物語から成る。作者を紫式部の娘、大式三位とする説もあったが、現在では六条斎院禪子(ばいし)内親王の宣旨の源頼国女を作者とする説が有力である。

86. さころも

承応3年頃写(1654)
袋綴、紙表紙、写本

4冊 28cm

87. 狹衣 さごろも

寛政10年写(1798)
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本
「狹衣目録並年序」、「狹衣下紐」、「狹衣系図」を含む。

88. 狹衣系図 / 三条西実隆著 さごろもけいいず

江戸初期写(1600年代)
折本、紙表紙、雁皮紙

20丁 18cm

89. 狹衣物語系統早見 さごろもものがたりけいとうはやみ

9丁 26cm
袋綴、紙表紙、写本
池田亀鑑博士研究資料

浜松中納言物語

後冷泉朝(1045-1068)頃の成立かと思われる。主人公の中納言と何人かの女性たちとをめぐる話を中心とした物語が、日本、唐土を舞台に、夢や転生を織り交ぜながらつづられている。

90. 浜松中納言物語 はままつちゅうなごんものがたり

文化10年写(1813)
袋綴、紙表紙、写本
朱・墨書きあり。

4冊 27cm

91. 浜松中納言物語 はままつちゅうなごんものがたり

水野忠央編
嘉永元年刊(1848)
袋綴、紙表紙、刊本
丹鶴叢書。

堤中納言

平安後期の成立か。「花桜折る少将」「このついで」「虫めづる姫君」「ほどほどの懸想」「逢坂越えぬ中納言」「貝あはせ」「思はぬ方にとまりする少将」「はなだの女御」「はいすみ」「よしなしごと」の10編の短編物語よりなる。名前の由来はこれらを一包みにして保存していたところから「包みの物語」とする説と、各編に登場する人物が堤中納言藤原兼輔(かねすけ)を連想させるため、読者が命名したものという説がある。

92. 堤中納言 つつみちゅうなごん

寛永頃写(1624-1644) 2冊 28cm

袋綴、紙表紙、雁皮紙

姫路侯榎原忠次旧蔵本。榎原忠次は93番の資料を所蔵していた松平忠房と共に、時の大学頭林鷺峰と親しく、鷺峰の著書「国史館日録」にも記されている。それによると珍本がある場合、三者の間に貸借して転写するなど親密であったことがうかがわれる。本資料と93番の資料を比較すると榎原本が島原本を親本として書写したとは考えられないし、逆の可能性も少ない。両者は祖本を同じくする兄弟関係にあるとみるのが穩当であろう。

93. 堤中納言 つつみちゅうなごん

江戸初期写(1600年代) 10冊 28cm

袋綴、紙表紙、楮紙、写本

肥前島原侯松平忠房旧蔵本。

とりかえはや物語

「古とりかえはや」は白河朝(1072-1086)から堀河朝(1086-1107)までの間に、「今とりかえはや」(現存本)は、その後高倉朝(1168-1180)初期までの間にそれぞれ成立されたと推定される。権大納言大将が異腹の子供二人をその性質から、男を女として、女を男として育てたことによって起こる騒動の物語である。

94. とりかえはや物語 とりかえはやものがたり

江戸中期写(1700年代) 4冊 27cm

袋綴、紙表紙、写本

95. 東海大学蔵桃園文庫影印叢書 / 東海大学桃園文庫影印刊行委員会編

東京：東海大学出版会

1990-1996

13冊 31cm

桃園文庫所蔵の影印本。

96. 源氏物語大成 / 池田亀鑑編著

東京：中央公論社

1971

8冊 27cm

池田亀鑑博士の源氏物語研究の集大成である。

池田亀鑑博士略年譜

- 明治 29年 12月 9日 鳥取県日野郡福成村に、父池田宏文と母とらの間に長男として生まれる。
- 45年 4月 鳥取県師範学校第一部に入学。
- 大正 5年 2月 同校本科第一部の課程を卒業。
- 7年 4月 東京高等師範学校本科第二部に入学。
- 11年 3月 同校本科第二部を卒業。
- 12年 4月 東京帝国大学文学部国文学科に入学。
- 15年 3月 同校文学部国文学科を卒業。
- 卒業論文「宮廷女流日記考」
- 6月 東京帝国大学文学部副手
- 昭和 2年 2月 「宮廷女流日記文学」を至文堂より刊行。
- 5年 6月 「紫式部日記」「土佐日記」を岩波書店より刊行。
- 8年 9月 「伊勢物語に就きての研究 校本編」大岡山書店より刊行。
- 9年 3月 東京大学文学部助教授
- 5月 「枕草子」全3巻を完結、岩波書店より刊行。
- 「伊勢物語に就きての研究 研究編」を大岡山書店より刊行。
- 16年 2月 「古典の批判的処置に関する研究」全3巻を岩波書店より刊行。
- 17年 10月 「校異源氏物語」全5巻を中央公論社より刊行。
- 18年 10月 「宮廷と古典文学」を光風館より刊行。
- 19年 6月 18日 「古典の批判的処置に関する研究」により第一回日本文学報国会全国文学賞を受賞。
- 22年 3月 「和歌・歌物語・日記・説話に関する論考」を目黒書店より刊行(中古国文学叢考 第3分冊)。
- 7月 「今昔物語」を愛育社より刊行。
- 12月 「花鳥風月誌」を斎藤書房より刊行。
- 23年 4月 文学博士号を授与。
- 学位論文「古典の批判的処置に関する研究」
- 27年 7月 「平安朝の生活と文学」を河出書房より刊行。
- 11月 29日 日本学術会議の推薦により「源氏物語の本文研究及び総索引の作成」に対し、昭和27年度毎日学術奨励金を授与。
- 28年 6月 「源氏物語大成」全8巻を中央公論社より刊行を開始。
- 10月 21日 東京大学における講義終了直後、教室において倒れ、東大附属病院に入院。
- 29年 9月 「清少納言」を同和春秋社より刊行。
- 10月 21日 東大附属病院より退院。以来病床にあって「源氏物語大成」その他の仕事に精励、病身をおして東京大学の講義を続ける。
- 30年 4月 東京大学文学部教授
- 31年 11月 「全講枕草子」上巻を至文堂より刊行。
- 12月 5日 「源氏物語大成」を完結。
- 12月 19日 順天堂病院にて死去。享年六十
- 32年 1月 3日 昭和31年度朝日賞発表、「源氏物語大成」の完成に対し、文化賞を授与。

参考文献

- 「日本古典文学大辞典」 日本古典文学大辞典編集委員会編 岩波書店 ,
1983-1986
- 「源氏物語事典」 池田亀鑑編 東京堂 , 1960
- 「桃園文庫目録」 上巻 東海大学附属図書館 , 1986
- 「源氏物語事典」 三谷栄一編 有精堂 , 1973
- 「東海大学所蔵特別図書展 展示図録」 東海大学 , 1995
- 「徳川時代出版者出版物集覽」 正・続 矢島玄亮著 徳川時代出版者出版物
集覽刊行会 , 1976



発行日 2006年11月1日
印 刷 教育支援センター 印刷業務課
発行所 東海大学付属図書館
〒259-1292 平塚市北金目1117
TEL 0463-58-1211 (代)

